



陸前高田 津波到達点に植えられた桜

岩手

東日本大震災で、津波の甚大な被害に遭った岩手県陸前高田市。未来の陸前高田を守るため、桜を植樹する活動が行われています。



岡本さんを始めた桜ライン311のスタッフと、植樹参加者との記念写真。

守り伝えていく
教訓のための桜のライン

す。明治や昭和の津波のとき、教訓のための石柱が建てられていたが、先人のそうした意思はなかなか現代に伝わっていません。そこで、今回はどうしようかと考えたときに、生きたもので残していきたいと思っただけです。桜は、日本人にとって特別なもの。きつと守り伝えていけると。陸前高田を眺めたときに、点々とつながる桜色のラインを見て『あそこまで津波が来たんだよ』と語り継いでほしいです」

震災を忘れないことも
大切な支援のひとつ

陸前高田の津波到達点をつなぐと、距離にして約170km。桜ライン311の計画では、10mおきに1本ずつ植えるので、17000本を植樹することになります。

「開始から2年で、現在647本の植樹が済んでいます。桜は病虫害に弱く植樹できる時期が限られるので、一気に進めることはできません。また、植える場所の確保も難しいです。

陸前高田市内のようすと、桜ライン。

3年前の3月11日、陸前高田は未曾有の津波に襲われ、多くの人が命を落としました。この被害を未来に伝えるために、津波の最大到達線上に桜を植える活動をしている人たちがいます。「特定非営利活動法人桜ライン311」の代表・岡本翔馬さんに、お話を伺いました。

「陸前高田の津波は、これが初めてではありません。東日本大震災の津波は、この120年で4回目のものでした。ですが、こうした過去の災害は、語り継がれてこなかったんで

復興のための高台移転や区画整理事業が計画され、町がこれからどうなるかわからないので、住民のみならず行政との協力が不可欠です」
桜並木の完成までには、15〜20年かかるだろうと岡本さんは言います。陸前高田出身の岡本さんは今、30代前半。陸前高田のこれからを、

自らの人生をかけて作ってほしいとする、頼もしい若者です。

「活動をしていて強く思うことは、色々な人が多くを与えてくれているということ。これまでに、約1600人もの方がボランティアとして植樹に参加してくれました。やはり、現地に来なければ被災の状況は

わかりません。津波の到達点に立ち、その土地に住んでいた人と話をし、やっと見えることがある。この活動を通して被災の状況をみなさんに知ってもらい、全国の災害対策に役立つたらいと思っています。」
桜ライン311の活動支援はもちろんです。震災の支援としてでき

いつか、街の希望となる桜並木です

オレンジの斜線が、津波が到達した区域。桜のマークは、現在植樹が済んでいる主な場所を表しています。



ることはそれだけではありません。「復興の街づくりは、もちろん地元の人为主导であるべきです。ですが、身近にいるその街に関わりのある人を支えてあげることも、大切な支援です。決して震災を忘れてしまうことなく、気にかけてください」



植える桜は、なるべく塩害や冷害、虫害に強い品種。ベニシダレザクラ、ベニヤマザクラなどを中心に植えています。

今、わたしたちが出来ること

陸前高田観光

実際に行って観光し、地域の経済を活性化させることも、支援のひとつです。「交通も大丈夫ですし、宿も増えました。魚介類のおいしさも自慢です。みんな温かく迎えてくれますよ」と岡本さん。ぜひ、春の行楽の季節にお出かけを。

桜ライン311への協賛金

桜ライン311では、植樹のための協賛金を募集しています。マンスリーサポーターになれば、年2回届くニュースレターで桜を見守っていくこともできます。詳しくは以下のサイトをご覧ください。

●桜ライン311
<http://www.sakura-line311.org/>

映画『あの街に桜が咲けば』

桜ライン311の活動の取材や、被災地でのインタビュー映像を通して、現地の方の生きる姿を描くドキュメンタリー映画です。全国各地で上映会が開かれていますので、ぜひご参加を。上映会の情報は以下のサイトをご覧ください。

●『あの街に桜が咲けば』公式サイト
<http://anosaku.ifdef.jp/>

次号にて北海道の桜をお届けします。お楽しみに。